

## 日本労働年鑑 特集版 太平洋戦争下の労働運動

The Labour Year Book of Japan special ed.

## 第六編 朝鮮民族独立運動

## 第二章 抗日武装闘争の開始

## 第四節 労働者・農民運動

東満各地において日本帝国主義の統治に甚大な打撃を与えた武装闘争の展開は、「満洲」各地のみならず朝鮮の全人民に民族解放への希望とかぎりないはげましとなった。直接的には抗日遊撃隊員の積極的な地下活動で人民大衆に反日気勢をたかめ、労働者・農民・青年学生の間に革命的組織が拡大された。一九三三年春には、延吉県八道溝の全鉱労働者一五〇余名が一度に遊撃隊へ集団入隊したほか、朝鮮内でもソウル・平壤・釜山をはじめ産業都市に革命的労働組合が組織され、また貧農・雇農を中心に広範な農民を網羅した農民組合も咸鏡南北道・慶尚南北道などで組織された。一九三三年七月には釜山のゴム工場労働者一〇〇〇余名が参加したゼネスト、黄海道遂安郡の農民暴動をはじめ、苛酷な弾圧にも屈せず、賃銀引上げ、八時間労働制の実施、団体契約権の実施、民族的差別待遇の撤廃などの要求をかかげてたたかった。

一九三一年から三五年までにおこった主要なストライキ件数だけでも、九〇二件、参加者は七万〇九二九名におよんだ。同時期の農民の小作争議は件数三五一件、参加者一万七七九五名であり。被検挙者数は一万余名にのぼった。抗日武装闘争の影響と共産主義者の指導のもとで発展した革命的労働者・農民闘争は、階級的・政治的にますますめざまめて小ブルジョアインテリの影響から脱皮し、労農提携のもとで反日民族解放闘争に統一戦線を組む条件がつくられていった

日本労働年鑑 特集版 太平洋戦争下の労働運動

発行 1965年10月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2000年2月22日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 特集版 太平洋戦争下の労働運動【目次】 次のページ → ■  
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)